

令和8年度第2回青谷地域振興未来会議 議事概要

日時：令和8年7月24日（金）午後1時30分～3時00分

会場：青谷町総合支所 第2，3会議室

【出席委員】

秋田典昭、井上智朗、浦島考雄、大谷茜、田内伸一、棚田美紀雄、長谷川優、
浜野幸子

【欠席委員】

青木綾、斎藤智範、山田由理子

【事務局】

＜青谷町総合支所＞

佐々木支所長、田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、
高野産業建設課長、金崎市民福祉課長、能勢地域振興課課長補佐

＜資産活用推進課＞

福井総務部次長兼資産活用推進課長、長谷施設経営係長

【オブザーバー】

＜地域振興課＞

坂本総括主査（総合支所エリアマネージャー）

【日程】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ 田内会長
- 3 議題

【報告事項】

- （1）【資産活用推進課】 暮らしと公共施設を考えるワークショップについて
(資料1)
- （2）新たな防災気象情報に対する対応について
(資料2)

【協議事項】

- （1）委員提案について
(資料3)

(2) 委員提案の対応状況

(資料4)

4 その他

- ・その他報告

5月19日 地域振興未来会議 議題

「乳幼児健診検査の実施体制の見直しについて」に関する質問

5 閉会

◎議事概要

<報告事項>

(1) 【資産活用推進課】くらしと公共施設を考えるワークショップについて

説明者：福井総務部次長兼資産活用推進課長

青谷地域における公共施設の現状、市の財政状況、今後の再配置に向けた取り組みについて説明。

青谷地域には現在 52 の公共施設があり、年間の公費負担額は約 3 億 9,800 万円に上る。また、2040 年には人口が約 24%減少すると推計されている。市全体でも福祉費用や物価高騰による支出が増加し、老朽化した施設の修繕費用確保が難しくなっているため、市は施設の削減や譲渡を進める方針。

施設仕分けの結果、青谷地域の 52 施設は「当面維持」11 施設、「施設別に検討」33 施設、「譲渡・廃止の検討」8 施設に振り分けた。

市は施設数を減らしつつ機能を高める「縮充（しゅくじゅう）」を目指しており、今年 11 月と 12 月に住民参加のワークショップを開催し、そこで出された意見を参考に、来年度以降、青谷地域の再配置方針を策定していく予定。

【委員】今後の進め方の青谷エリア 52 施設の中で、当面維持する施設、譲渡廃止する施設はどのようなものか教えてほしい。

【事務局】資料 1 の 3 ページ別紙に、機械的に仕分けをした結果を記載している。施設名を当面維持が黒色、施設別に検討が赤色、譲渡廃止が青色に色分けをしている。

【委員】機械的な仕分けとは、具体的にどういう内容で仕分けられたのか。

【事務局】資料1の1ページ「仕分けフロー」を用いて、812施設全てを仕分けしている。

【委員】ワークショップの参加について、募集対象は中学生以上で20名程度となっているが、青谷は5地域あり、それぞれが年齢、職種も多様性があるので、各地域から代表が参加するようなイメージなのか。

【事務局】中学生については、既に青谷中学校には話をしており、5、6人の生徒に参加していただくように依頼をしており、中学生だけで1グループ作る予定。大学生については、今回のワークショップは、前橋工科大学の堤先生と鳥取大学の長曾我部先生にご協力いただいております、そちらのゼミの関係で、東京の大学からの学生も参加する。一般の方の募集は、地域にこだわらず、いろんな方がご参加いただければありがたいが、人が集まらなければ、支所を通して、個別でお願いしたいと思っている。

【委員】20名を超える場合はどうなるのか。

【事務局】福部でも20名を超えて30名ぐらい応募があった。グループをもう一つ作るなど対応させていただく。

（2）新たな防災気象情報に対する対応について

説明者：佐々木支所長

従来の防災気象情報は、警戒レベルと気象情報との対応が災害ごとに異なりわかりにくいという課題があり、これを解消するために運用方法が変更された。変更内容について、市民へ周知・啓発を図るため、全世帯へのチラシ配布や市報などの案内とあわせて、会議の場でも説明する。

大きな変更点は、「警戒レベルの数字表記」、「レベル4 危険警報の新設」、「各災害（大雨、氾濫、土砂災害、高潮）情報の整理」となる。

早めの避難を原則とし、指定避難場所にこだわらず、近くの頑丈な建物の上層階へ移動するなど、その場で最善の安全確保行動をとることが重要。

スマホをお持ちの方は、鳥取市の防災アプリから情報を取得していただきたい。

【委員】春から制度の運用が変更になっているが、なぜ今説明するのか。

【事務局】変更されてから説明する機会がなかったこと、人が集まる会議や集会の場での周知が市の方針であることから、この場で説明させていただいた。

(3) 委員提案について

【委員提案①】

① 地域社会で支える引きこもり者等への早期支援と情報周知に向けた提案

- ・ 前回の報告内容と同様
- ・ ひきこもり者への情報提供について、別添の回覧を配布し、必要な情報が届く仕組みを構築。

【委員提案②】

② 青谷地域活動団体の見える化と連携強化について

1 提案の背景と目的

- ・ 団体活動やイベント運営を通じて、各団体の活動内容や連絡先（所管となる市支所、社会福祉協議会、医療生協などの支援形態）が外部から見て把握しづらい状況。
- ・ 点在する各団体を線で結び、お互いの「顔が見える関係性」を構築することで、地域活動の円滑化および活発化を図る。

2 解決すべき課題

- ・ 市が把握する補助金対象団体だけでなく、社協関係、医療生協支援団体、任意団体などの活動情報の一覧が存在しない。
- ・ 新規に活動を開始する際、イベント保険加入や警察・消防への届出といった実務手続きのノウハウが共有されず、手探りで疲弊してしまう（横のつながりや事例共有があれば負担が軽減できる）。
- ・ 多くの団体で中心人物が重複しているため、団体間の連携を深めることで負担

を分散し、効率的な運営につなげる必要がある。

3 具体的な提案

(1) 地域団体リスト（一覧表）の作成

- ・対象とする団体は、市の補助金対象団体に限らず、社協、公民館、まちづくり関係、医療生協などが把握する地域団体（例：折り紙の会、遺跡クラブ、配食弁当の調理グループ、「愛ファクトリー」や「のぞみハウス」などの福祉関連事業所、交流拠点「みんなの広場」など）。
- ・プライバシー対策として、個人の連絡先を直接記載せず、市支所や社協等を連絡窓口として設定する。
- ・最初から完璧を目指さず、把握可能な範囲から作成を開始し、定期的な更新・削除を行う。
- ・必要な人がいつでも参照できるように、ホームページへの掲載や窓口での閲覧を想定している。

(2) 情報交換・交流の場の設置

- ・「あて職」による形式的な会議や定期的な会議ではなく、自主的な参加者同士が活動に直結する生きた情報（チラシの安価な作成方法、イベント保険の手続きなど）を教え合える場を目指す。
- ・すぐに実現することは難しいので、まずはリスト作成による情報共有から開始する。その上で、将来的に緩やかなつながりや自主的な交流が生まれる環境を整備していく。

【委員提案③】

③ 青谷地域活性化に向けた各種団体の連携強化に関する提案

1 提案の背景、現状

- ・昨年度の未来会議で、まちづくりに関わるいろんな団体があるので知ることができたらいいと話をしたところ、支所だよりで各団体の紹介記事を掲載してもらっている。
- ・かみじち音楽祭、散歩フェス、ようこそ市などがあり、町外の友人からは「青谷は活気がある」と言われているが、住民自身がどれだけ実感できているかと

いう懸念がある。

- ・青谷地区まちづくり協議会役員会でも、各団体は単独でよく頑張っているが、横の連携が不足しているので、相互支援できる関係性が作れば、まちづくり協議会としても支援、協力、応援ができるようになるという意見があった。
- ・お互いの取組を知り、共助関係を作ることによって「点」を「線」に、さらに「面」へと広げ、地域全体の活動の見える化と活性化を図る必要がある。

2 解決したい課題

- ・各種団体相互の連携強化（山田委員と同様）
- ・新たな青谷町の魅力の追求

3 課題解決のための具体策

- ・合同連絡協議会の開催

まちづくり協議会、公民館、和紙工房、郷土館など、地元企業など各種団体が、短時間でも話し合える場を設ける。

- ・目標の一本化

理想としては、地場産物の活用、伝統・地場産業のPR、かみじちとの協働連携作業、観光地PRなどテーマを絞り込み、地域が一丸となって一つのことに集中して取り組む。さらに、各種事業への協力者やボランティアを募集する。特に中学生や青谷高校生などの若い世代を巻き込み、地域人材の育成を図っていく。

【委員】前向きな考え方で良いことだと思いながら伺ったが、実施にあたって具体的なもの（組織、人、まとめ役など）があれば聞かせていただきたい。

【委員】構想を練った上で提案すればベストであるが、まだその段階ではなく、果たしてできるのかということもある。昨年度、青谷地域活性化協議会という連絡会があると聞いている。新たなものを立ち上げると大変なので、例えば、その会を活用して一度ワイド版でやってみるとか、気運・きっかけ作りができればと思っている。ただ、現段階では白紙状態である。

【委員】実行できれば非常に良いが、個人や団体同士のつなぎ役を担う人材が重要で、そこにはかなりの意欲とエネルギーが必要となる。今後の検討課題として皆さ

んで考えていってもらいたい。

【委員】まずは、青谷町内にどのような団体が存在し、目的や活動内容などをリストアップすることが先決だと思うが、どこがそれをするのかは今後の検討事項となる。

【委員】支所としてはこの提案に関してどのような絡みがあるのか。

【事務局】支所の現在の取組の中では、青谷地域の振興を目的に「青谷地域づくり連絡協議会」を設置し、地域の豊富な資源の活用や魅力発信を行っている。今年度は7団体（郷土芸能の保存、青谷上寺地の学習、鳴り砂の保全、物産販売促進、魅力発掘、観光促進、住民交流など）が、市の補助金と自主財源を活用して個別に活動しているが、現状の協議会は「団体同士が活発に意見交わす場」とはなっていない。そのため、現在の取組の延長線上で連携を強化することは難しく、一から体制を立ち上げる必要があると考えている。市としても青谷町内で活動する団体を十分把握しきれていない状況がある。鳥取市全体では、社会福祉協議会による市民活動団体の登録制度があり、市民活動施設「アクティブとっとり」が利用できるなどのメリットで登録が進んでいるが、青谷地域でも活動団体を集約する場合には、具体的なメリットが必要となるのではないかと考えている。

【委員提案④】

④ ダイキンアレスとの災害時避難に関する協定締結について

1 提案の背景、現状

- ・ダイキンから一時避難所として受けてもいいと伺っている。

2 解決したい課題

- ・口頭では受けてもらえるように伺っているが、明文化されたものはない。

3 課題解決のための具体案

- ・ダイキンと鳥取市とで避難所としての協定を結んでいただきたい。
- ・協定書まででなくても、明文化みたいなことまではお願いしたい。

【事務局】令和5年の大雨の時に、井手の方が何名かダイキンアレスに一時避難した

ということを伺っているが、このような動きは、把握できていないので、次回以降の会議の中で、検討していきたいと考えている。

(4) 委員提案の対応状況

説明者：金崎市民福祉課長

- ・「相談・お問合せ先」の相談窓口は、鳥取市の公式ホームページに掲載されているもので、内容によらず、電話しやすいところや訪問しやすいところに相談いただくことが第一歩となる。
- ・電話での相談が難しい場合は、ひきこもり LINE 相談を利用いただくのも一つの方法だと考えている。
- ・青谷町地域共生社会推進連絡会は、地域での暮らしに関する課題で緊急または重大なものへの検討、生活困窮者に対する支援を図るために必要な情報の交換及び支援体制に関する検討を定期的に関係機関が情報共有しながら進めていく団体であり、未来会議で出たひきこもり問題についても、継続的な検討課題として採用されるように連絡会に働きかけを行っていききたい。
- ・総合窓口案内の周知も、支所が主体ではなく、もっと大きな括りとなる推進連絡会が情報発信するように併せて検討していきたいと考えている。
- ・青谷地区民生児童委員協議会でも、ひきこもりをテーマとした研修を継続して行い、民生児童委員の3年の任期交代にも対応できる取組を検討する。
- ・麒麟のまち圏域で鳥取市が実施する「鳥取市つながりサポーター」のほか、鳥取県孤独孤立対策課が実施する「鳥取孤独孤立サポーター」、鳥取県の受託事業者 鳥取ひきこもり生活支援センターが実施する「ひきこもりサポーター」の3つのサポート制度がある。
- ・「ひきこもりサポーター」の研修を受講したが、ひきこもり当事者と、周囲（家族・第三者）の思いには大きな乖離があるという気づきを得られた。これを理解するだけでも今後の対応は大きく変わらと思うので、福祉の専門職だけでなく、一般市民にも参加を広めるべきだと改めて認識した。

- ・年 4 回鳥取市で開催される「鳥取市つながりサポーター」養成研修の青谷地域での参加者を増やすため、青谷町での出前講座として誘致することを検討している。
- ・まずは、地域住民自身がひきこもりへの理解を深め、当事者や家族から声が上がった際にそっと手を差しのべられる環境づくりを目指して行きたいと考えている。

【委員】市民福祉課として今後の取組を考えていただきありがたい。仕事の中で、この提案の回覧文の内容を変えたものを人口 2,300 人の若桜町で、行政と協力して 1,100 世帯に配布し、相談機関に年間どのくらい相談があるのか反応を見ている。個人の仕事の中でのことではあるが、情報は共有させていただきたい。この取組はすぐには結びつかないが、一人でも多くの人が変わるきっかけになり、安心して住める社会になればと思っている。

【委員】青谷で研修が開催されるのであれば行ってみたい。西ブロックで開催されるのであれば参加していたいと思う人は一定数いると思う。

【委員】青谷地域で鳥取市つながりサポーターが 6 名登録されているが、どのような活動実態があるのか。

【事務局】つながりサポーターの活動は、報告義務のない市民ボランティアとなっている活動内容までは把握していない。登録者に定期的な研修とか交流会の案内を送付することまでは承知している。

4 その他

・その他報告

5 月 19 日 地域振興未来会議 議題「乳幼児健診検査の実施体制の見直しについて」に関する質問

説明者：能勢地域振興課長補佐

- ・前回の未来会議で発言できなかった意見を、委員個人の意見として 5 月 26 日に事務局からこども家庭センターに送っている。
- ・未来会議の総意ではないが、委員の方々に共有してほしいという要望があったもの。

・その後の経過として、青谷地域を含め他地域の未来会議で出た意見を踏まえて、健診会場の統合に関するアンケートをこども家庭センターが実施している。

・アンケート内容については、

- 対象者：西地域・南地域在住で ①乳幼児健康診査（6 か月児健診、1 歳 6 か月児健診、2 歳児歯科健診、3 歳児健診）を受診する保護者、および
②おやこ（母子）健康手帳交付時の妊婦

■期間：令和 8 年 6 月 10 日（水）～令和 8 年 10 月 21 日（水）（3 か月間）

■調査・周知方法：紙ベースでの配布・回収。

- ①健診案内通知への同封 ②健診会場やおやこ健康手帳交付窓口での配布（こそだてらす、各総合支所市民福祉課）

■実施スケジュール：回答締め切り後、11 月中旬に報告書作成。これを踏まえて方針検討を行う予定。

・委員提案「大人食堂」の進捗状況について（報告）

【委員】前回の未来会議後にワーキングを行った。新たにどこかを借りて始めるのではなく、青谷町内の既存店舗（つばさベーカリー、弥生など）の協力を得て実施することを検討しており、店舗側からは企画についての賛同いただいている。実施に向けては、チラシ作成など開始は可能だが、参加者が集まるかどうかなどの課題もあるため、拙速に進めず、ゆっくりと自分の中で煮詰めていきながら考えていきたいと思っている。

【委員】分科会については今後どうされるのか。

【委員】今集まっても、内容を詰め切れない。現時点で見切り発車はせず、もう少し自分の中で考えていきながら、また声をかけさせてもらえたらと思っている。